

News & Views

vol.3
Mar, 2016

京都から世界、世界から京都へ京都府立医科大学の「今」を伝える広報誌



世界と歩む

京都府立医科大学の国際化のいま



京都府立医科大学

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE



世界水準の人材の 育成を目指して

京都府立医科大学 学長 吉川 敏一
Toshikazu Yoshikawa

蓄えた叡智を地域に還元できる 国際感覚あふれる人材の育成

京都は今や世界的な観光地として、多言語化や免税手続きのシステムが構築され、町中で飛び交う外国語もあたりまえになりつつあります。米国、欧州はもちろん、特にアジアを中心として、急激なインバウンド需要の高まりに追いつけず、経済をはじめとして大きな摩擦が起こり始めています。

こうした中で、現在、京都府立医科大学は、科学技術創造立国を目指す日本の京都にあって、世界水準の人材の育成を目指して、世界最先端の医療並びに医学研究に触れ、高い目標を持って研鑽を積み、蓄えた叡智を京都府民に還元できる国際感覚あふれる人材を育成するため、海外派遣先の確保や海外において基礎研究あるいは臨床研修を行う機会の積極的な提供を行うことや、留学生の滞在環境整備を行い、

多様な文化や経歴を持つ海外からの留学生と交流を行っています。将来の世界的水準の学際的医学研究を推進できる人材育成にも繋がり、国際貢献の一端であるのみならず先端的な高度医療技術を遅滞なく取り入れる最善の機会を作ることになります。

こうした大学部門の国際化に加えて、本学附属病院では通訳者の配置や院内掲示の多言語化など、外国の患者さんが来院しやすい環境の整備を進めているところです。

こうした国際交流のシステムを一過性で終わらせないよう体制を整えるため、平成27年3月には国際化推進プランを策定しました。

“世界トップレベルの医学を地域へ”という本学スローガンにふさわしい医療提供の礎を、国際学術交流センターを中心に進めていきます。



「国際化」を目指して

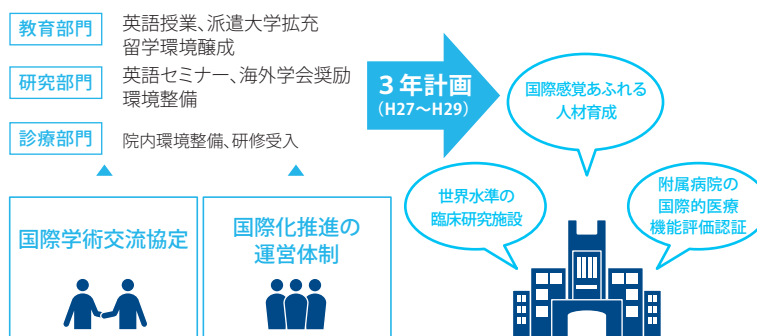
国際化推進プラン

Plan & Flow

京都府立医科大学の国際化を推進するにあたり、学内の実態調査を踏まえ、平成27年3月に国際化推進プランを策定しました。

『教育部門』『研究部門』『診療部門』の3部門において、中長期的な視点から平成27年度から29年度の3ヶ年計画で取り組んでおり、本プランに基づいて国際感覚あふれる人材育成をはじめ、学内の国際化に向けた体制整備を進めています。

国際化推進プランフロー図



国際交流協定校の状況

Situation

国際化推進プランに基づき「学生の2割に海外での学びの機会を提供する」ことを目標に、留学生の相互派遣ができる海外の大学との協定締結に向け、現在17校と協定締結しています。



国際交流センター長 メッセージ

Message

高度で融合的な発展を目指して取り組みを進めています。



水野 敏樹センター長(神経内科学教授)

京都府立医科大学は“世界トップレベルの医学を地域へ”をスローガンに、今日まで地域医療の提供を徹底して進めて参りました。このためには世界最先端の医療並びに医学研究に触れ、高い目標を持って研鑽を積み、蓄えた叡智を京都府民に還元できる国際感覚あふれる人材の育成が必須です。

国際学術交流センターでは、国際化推進プランに基づき、現在の多様化・融合化・国際化する教育研究の広がりを見え、本学以外の国内外の大学、大学院、研究機関等との連携・学術交流を積極的に推進することで本学教育研究の一層の高度かつ融合的な発展を目指して取り組みを進めています。



「国際化」を目指して

留学生の受け入れ

Exchange

新プログラムによる留学生受け入れ



今年度初めての取り組みとして、ダブルディグリー・プログラム(DDP)によるマーストリヒト大学(オランダ)から2名の修士課程の留学生が約10ヶ月間来学しています。

ダブルディグリーとは連携先の大学との相互単位認定により、一定の期間中に両大学の学位を取得できる制度です。

現在、マクシムさんは神経発生生物学、ワイナンドさんは統合生理学の研究室で研究中。それぞれ研究室

では、教育体制が充実していて非常に楽しく、研究者たちとの情報交換や会話も盛んとのこと。また、「研究分野以外でも、もっと学内の学生たちと交流したい」と話されていました。学内で見かけられたときは、ぜひ積極的にお話ししてみてください。

協定校へ留学した学生からのメッセージ

Message

将来の可能性を広げる経験

医学部医学科 第5学年 澤田 凌

毎年夏、留学を希望する医学科の学生がアメリカ・オクラホマ大学で臨床医学を学んでいます。今年度はイギリス・リーズ大学という選択肢も増えました。行ったことのない土地で生活することは大変なことです。実際、様々な準備も必要でしたし、現地でコミュニケーションに苦労することも多々ありました。しかし、それ以上に素晴らしいものを留学は与えてくれます。得るものはそれぞれ違うとは思いますが、それは過去形ではなく、未来形であるはずです。きっと将来に亘って自分を支えてくれるものであるはずです。たくさんの後輩たちが勇気をもって海外へ飛び出し、自分の可能性を広げてくれることを期待します。



研究の取り組み

Research

■ 独立行政法人日本学術振興会 研究拠点形成事業A.先端拠点形成型に平成27年度採用

採用研究課題名：国際ゲノム研究を基盤とした難治性眼疾患病態解明と治療戦略構築のための研究拠点形成

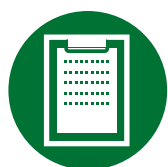
連携大学(国)

エルランゲン・ニュンベルク大学(ドイツ)、
長庚大学(台湾)、ヨンセイ大学(韓国)、
サンパウロ連邦大学(ブラジル)、マヒド
大学(タイ)、バーミンガム大学(イギリス)

本学感覚器未来医療学講座並びに視覚機能再生外科学は、日本で唯一の難治性眼表面疾患に対する先端かつ国際的研究活動を実践している研究・臨床医学拠点です。オーダーメイド医療実現化プロジェクト事業においては薬疹を誘因とする難治性眼表面疾患であるStevens- Johnson症候群(SJS)について、病因や病態の増悪因子となる遺伝子や蛋白等を次々と明らかにし、国際的に脚光を浴びています。これは世界で唯一のSJS専門外来を有効活用した成果であり、未来医療における診断、治療の標的を系統的に示してきたといえると思われます。現在、研究拠点形成事業Aに採択され、世界6か国の拠点大学とともに国際共同研究を推進しています。

附属病院の取り組み

Hospital



各種書類

問診票や案内書などの英語版を作成し、活用中



ホームページ

受付の時間や初診の流れ、交通案内などを英語で掲載



メールアカウント

idesk@koto.kpu-m.ac.jp

英語での問い合わせ用メールアドレスを運用中



英語通訳の対応

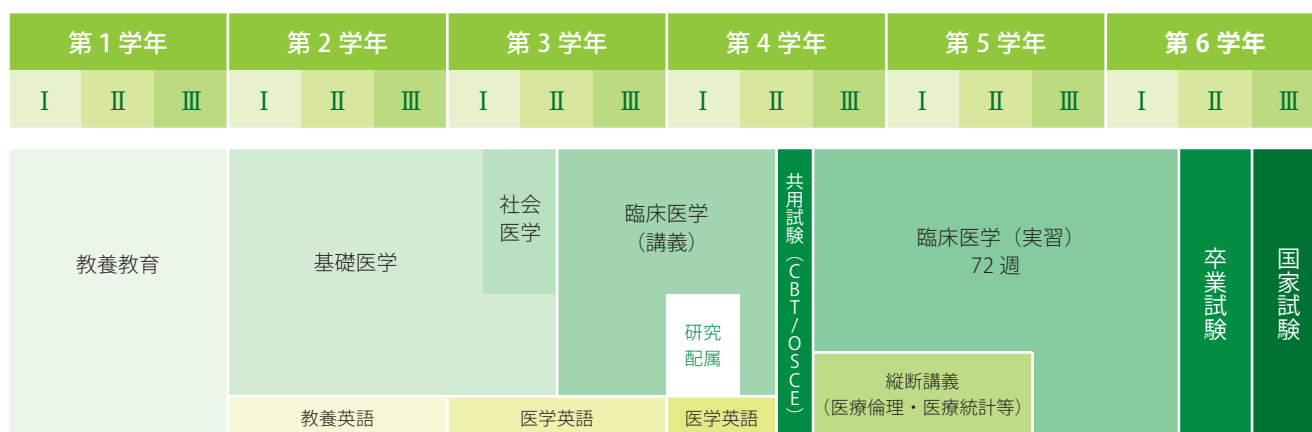
外国人患者のため、英語での対応ができるスタッフを配置

教育上の取り組み

Education

■ 国際認証型新カリキュラムの導入による分野別医学教育認証評価の受審

平成28年度より発足する医学教育に係る認証評価に向け、平成27年11月末に認証評価を受審しました。これにより、新制度で教育内容の認証を受けた医学部の卒業生のみ、これまで通り米国での就業を希望する外国人の医学部卒業生向けに臨床研修資格の受験資格を与えられることになります。



医学科カリキュラム概略図(平成26年度～)



新任教授インタビュー



ゆっくり、しっかり

細胞分子機能病理学

田中 秀央

Hideo Tanaka

着任日：平成27年4月1日

Profile

京都府立医科大学卒、医学博士。藤田保健衛生大学、カナダ・カルガリー大学への留学を経て、帰国後は本学で研究に従事。平成27年4月京都府立医科大学大学院医学研究科細胞分子機能病理学 教授に着任。

一言コメント

教養課程で学んだラテン語の高名な西洋古典学者(同姓同名)が大切にされていた“Festina lente (ゆっくり、しっかり急げ)”を座右の銘としています。

私は府立医大を卒業後、内科臨床や国内・海外での研究留学を経験し、また本学では25年に亘る勤務で多くの方々にお世話になりました。2015年4月、お世話になった本学で教授職を拝命しました。

『病理学』は病気の理(ことわり)を追求する学問です。医学を樹木に例えると、『病理学』は基礎医学という根から得た養分を臨床医学に行き渡らせ開花・結実させるための『幹』としての役割を担う部門であると私は捉えています。

細胞分子機能病理学部門は医学に留まらず工学など多様なバックグラウンドの研究者から構成されるユニークな集団です。最新の光学技術とバイオテクノロジーとを融合させたバイオフィotonicsという技術を駆使して、臓器や組織内の細胞の挙動や病気の原因となる分子の異常を可視化することによって、様々な病気の発生機序の解明を目指しています。私はこうした手法を使って主に心臓の致死性不整脈の発生機序の解明に努めてきました。

歴史ある府立医大で培われてきた先達の熱い思いを次の世代に伝える『心臓』のような役割をも果たすべく、不整脈にならないよう焦らず、ゆっくりしっかり、一拍一拍の積み重ねを大切にしていきたいと思っています。

決めた後は振り返らない

分子病態病理学

伊東 恭子

Kyoko Ito

着任日：平成27年4月1日

脳は『人類最後のフロンティア』とも言われる研究対象領域として、世界中で活発な研究が行われています。しかし、複雑なヒト脳の構造や機能は、その設計図とも言うべきゲノムが解明された現在にあっても、究明にはまだまだ時間を要します。とりわけ発生期における脳の障害は、遺伝や環境が原因として複合的に作用することが多く、未だに解き明かされていません。わからない、だからこそおもしろい。そのおもしろさを学生に伝えることが、疾病の発生する仕組みや原因を学ぶ基礎医学としての『病理学』教育を担う本教室の使命だと思っています。

分子病態病理学では、府立医大附属病院や関係病院からの依頼に応じて、特に脳神経系の病理診断コンサルテーションに力を入れています。また、病理解剖症例の解析や、随時、臨床病理検討会を行い、関係臨床科との連携を密にしています。臨床にも近い病理学としての環境で、研究テーマを見つけることも大切で、学生には研究のおもしろさをぜひ知ってもらいたいですね。

学内外の異なる分野の研究者や臨床の一線で活躍するドクターと連携協力しつつ、未知の謎に挑戦し続ける『病理学』でありたいと思います。



Profile

神戸大学 医学部卒、医学博士。ドイツ・ミュンヘン大学や米国・ケース・ウェスタン・リザーブ大学への留学を経て、平成27年4月京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学 教授に就任。

一言コメント

趣味というほどではないのですが、音楽を聞くのが好きで、特にクラシックが好きですね。

高い人権意識と研究倫理規範を 備えた医療従事者と研究者の育成

医学生命倫理学

瀬戸山 晃一

Koichi Setoyama

着任日：平成27年4月1日

法哲学・生命倫理学が専門で、中でも一貫して取り組んできた研究テーマは、本人のために自由(自己決定)を制約するというパターンリズムの原理の意義と限界についての比較法理論の考察です。医療や医学研究においてパターンリズムは、重要な主題となります。また保険や雇用における遺伝情報のプライバシーや遺伝子差別の問題など、医学の進歩がもたらす社会的倫理的問題をどのように解決していくかということが私の研究テーマです。

高校時代には、バンドを組んでボーカルとギターをしていて将来は、シンガーソングライターになるのが夢でした。次世代を担う若者に影響を与えるという意味では、大学教員とシンガーソングライターは相通ずるものがあると感じます。論文や著書等の研究成果は、後に残るものであり、曲作りとも似ている部分があると思います。

府立医大に着任してからは、今後の日本や地域の医療を担う医学生や看護学生への教育に大変遣り甲斐を感じています。また大学院生や研究者に対する研究倫理教育という重い責任も感じています。

医学生命倫理学を大学院主科目にさせていただき、教室で大学院生を受入れ研究指導ができる体制になりました。次世代の生命倫理学の研究教育者や学者の養成にも力を入れて行きたいと思っています。



Profile

大阪大学大学院法学研究科修了、法学博士。米国ウィスコンシン大学ロースクール留学、大阪大学特任教授を経て、平成27年4月京都府立医科大学大学院医学研究科 医学生命倫理学(医学部医学科人文・社会科学教室) 教授に着任。同大学研究開発・質管理向上統合センター副センター長。

一言コメント

書斎のルーフバルコニーでグラスを片手に音楽を聴きながら、星や夜景を眺めるのが好きです。



Profile

九州大学 医学部卒、医学博士。米国・アラバマ大学への留学や九州大学病院での臨床の経験を経て、平成27年5月京都府立医科大学 大学院医学研究科呼吸器内科学 教授に着任。

一言コメント

犬2匹とウサギ1匹を飼っており、休日には犬を連れて鴨川を散歩しています。人との距離が近い穏やかな川で癒されます。

1人1人の顔を見ること

呼吸器内科学

高山 浩一

Koichi Takayama

着任日：平成27年5月1日

九州大学呼吸器内科に入局したのは医局の雰囲気がよかったという単純な理由でしたが、その選択は間違っていないと思っています。

日本の死因第1位の悪性腫瘍の中で、最も死亡者が多い疾患が肺がんです。肺がんの治療法は外科手術、放射線治療、薬物療法の3本柱ですが、その中で呼吸器内科は薬物療法を担当します。

苦しい抗がん剤治療を患者さんに納得して受けてもらうためには、まず医師を信じていただかないといけません。限られた時間の中で患者さんの信頼を得るため、回診では一人一人の顔を見て、手を握ることから始めています。また、複雑化する肺がん治療を理解いただくため、解説のマンガ冊子を作成したり、「肺がんについて考える会」を開催し、わかりやすい情報提供に努めています。

これからは、本学の若く熱意のある先生方と一緒に、呼吸器疾患の診療や研究を行いながら、活気ある医局を作って行きたいと思っています。



新任教授インタビュー



成り行きを決然と生きる

呼吸器外科学

井上 匡美

Masayoshi Inoue

着任日：平成27年7月1日

Profile

大阪府出身、大阪大学医学部卒、医学博士。ドイツ・ヴルツブルグ大学、米国・ワシントン大学への留学や大阪大学での臨床経験を経て、平成27年7月京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器外科学 初代教授に着任。

一言コメント

学生時代は漕艇部に所属していました。今は中学・高校時代にやっていた剣道をリバイバルし、手術に必要な体力を維持しています。

これまで外科の中の一診療部門であった呼吸器外科ですが、臨床の現場のみならず学生や研修医の教育においても、周りの方々のご支援のおかげでようやく講座としての形ができてまいりました。これほど長い歴史と伝統のある京都府立医科大学で、こうして新しい教室のかじ取りにあたらせていただくことは大変光栄です。

呼吸器外科では、肺がんや転移性肺腫瘍、縦隔疾患、気胸嚢胞性疾患を中心に、胸部外科診療や手術を行っています。一つの臓器における障害や病気を単に取り除くことだけではなく、病で不安な患者さんを目の前にして、その方の生き方や考え方を理解した全人的医療を常に心がけるようにしています。

大学病院の強みを生かし、高度で先進的な治療手法に加え、各分野のスペシャリストと連携したチーム医療を進めることで、一人でも多くの患者さんを助け、結果として府立医大が地域の誇る医療の要として有り続けられるよう尽力して参りたいと思います。

常に新しい学問や技術を取り入れていくこと

脳神経機能再生外科学

橋本 直哉

Naoya Hashimoto

着任日：平成27年7月1日

学生時代から神経や脳に興味があったこともありますが、もう一つは、6回生の時に同級生が事故に遭い、私が実習を受けていた病院に搬入され、頭部外傷を負った同級生に付き添ったという経験もあって、脳神経外科の道を選びました。

「医は生涯の業にして、とても名人上手には至らざるものと見ゆ。それ上手と思わば、はや下手になるの兆しと知るべし。」

卒業時に、佐野豊元学長に自著の神経解剖のバイブル的教科書に書いていただいた言葉です。『脳』の分野はまだ未知のことが多く、さらなる研究が必要です。また、外科手術が主の我々は、常に新しい学問や技術を患者さんのために取り入れていかなければならないので、この言葉をいつも心がけて、既存にとらわれないようにしています。

そう思うと、府立医大生も時代とともに変わってきていて、自分の在籍当時と比べて、今は学生が真面目に講義に出ているなあと感じます。



Profile

京都府立医科大学卒、医学博士。米国・テキサス大学への留学や大阪大学の臨床・国際教育経験を経て、平成27年7月京都府立医科大学 大学院医学研究科 脳神経機能再生外科学教授に着任。同大学脳死判定委員会委員長。

一言コメント

大学時代は硬式野球部と軽音部に所属していて、時間に余裕ができたならバンド活動（ギター）を再開したいですね。

ポジティブ思考を大切に

内分泌・代謝内科学

福井 道明

Michiaki Fukui

着任日：平成27年8月1日

これまでは、一つの分野の中で自分の研究を突き詰めてきましたが、教授に就任してからは、大学全体をよくしていきたい、士気を高めしていきたい、という気持ちが強くなりました。

府立医大の内分泌内科は、患者指導のための糖尿病教室を全国で初めて開き、現在の糖尿病協会の活動も京都が全国に先駆けて行っています。多くの糖尿病患者、希少な内分泌疾患患者の診療を行っています。免疫内科では膠原病全般の臨床が中心ですが、主に慢性関節リウマチの診療、研究に従事しています。

こうした私たちの専門分野である糖尿病や膠原病といった疾患は、特定の臓器における病変の治療として捉えていては、『患者さんの健康とQOLの向上』には繋がっていきません。広く多面的な知識と視点から、診断や治療を行う『総合的な健康』を診ることができるドクターを、これから多く育てていきたいと思っています。

そのためにも他部門との協力は必須で、自分からあらゆることに前向きな考えを持って取り組み、教室内でのコミュニケーションをしっかりとしていくことを心がけています。



Profile

京都府立医科大学卒、医学博士。同大学で研究活動や臨床現場に立つ傍ら、米国・マサチューセッツ大学医学部での客員教授の経験を経て、平成27年8月京都府立医科大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科学教授に就任。

一言コメント

大学在籍当時は準硬式野球部でピッチャーしていました。今でも直球勝負を心がけています。



Profile

京都府立医科大学卒。京都府内の医療機関での従事や米国国立衛生研究所においてリサーチフェローとして留学した経験を経て、平成27年8月京都府立医科大学大学院医学研究科循環器内科学教授に就任。

一言コメント

大学時代、夏場は卓球部に所属していました。冬場は、いつも皆でスキーに行っていました。実は星を見るのが好きなんです。

希望は失望に終わることはない

循環器内科学

的場 聖明

Satoaki Matoba

着任日：平成27年8月1日

京都府内の病院で循環器内科の第一線にいました。研究分野としては、ミトコンドリアの機能を切り口に、狭心症や心筋梗塞、心不全などの循環器系のあらゆる疾患に関して、臨床に近い研究を進めてきました。

これまでは、医局の一員として、診療や研究を行ってきましたが、教授に就任してからは当然、周りを見渡せる視点が必要になってきます。そのためにはそれぞれの多様性を大切に、周りとの十分なコミュニケーションを取ることが大切だと思っています。循環器と同じで、良い流れが生まれる環境づくりは重要です。教室を支えてくれているスタッフはもちろん、京都府下や関西圏の循環器・腎臓疾患の第一線を担う府立医大の同窓生たちと連携しながら、自らが率先して取り組んでいく気概をもって、研究や診療の最前線に立ち続けていきたいと思っています。

医師としての使命とともに、科学者としての夢を探究すること、そしてどんな時でも希望を持ち続けることを胸に、新しい時代を切り拓いて行きます。



新任教授インタビュー



Profile

京都府立医科大学卒。以降、京都府立医科大学の医員として、京都市内の眼科系の臨床現場において従事し、平成27年8月京都府立医科大学大学院医学研究科視覚機能再生外科学 教授に就任。同附属病院診療部長。

一言コメント

園芸や緑を見るのが好きなので、都市部のビルばかりのところではなく、緑が身近な京都で本当によかったです。

迷ったときは積極的な方へ

視覚機能再生外科学

外園 千恵

Chie Sotozono

着任日：平成27年8月1日

府立医大を卒業してからずっと附属病院で臨床に携わってきたので、教授に就任して、「おめでとう」とお祝いの言葉を述べてくださる患者さんもいれば、「これからも診察してもらえるんですか？」と不安になられる患者さんもありました。もちろん、教授としての仕事もありますが、臨床医は患者さんと向き合う臨床の現場が第一ですので、良質の診療を心がけ、患者さんとの時間を大切にしたいと思います。また公立医科大学として、地域に根付いた病院の一端を担っていきたいと思っています。

研究分野としては、指定難病であるスティーヴンス・ジョンソン症候群に関する研究を進めています。希少疾患の一つで企業ベースではなかなか治療方法が開発されない側面もありますが、医療機器と角膜再生医療の、両面からの研究に携わっています。医学研究が基礎研究と臨床研究に大別される中で、長い歴史のある府立医大は地域との繋がりも強く、多くの優秀な医師を輩出しており、臨床研究を支える土壌があると感じます。

今後、研究開発・質管理向上統合センターも動いていく中で、臨床研究や治験で培ってきたノウハウが共有されていき、少し時間はかかるかもしれませんが、臨床治験などの実用化研究がしっかり進めていける大学になるよう、支えていきたいと思っています。

Where there is a will, there is a way

(意志あるところに道は開ける)

泌尿器外科学

浮村 理

Osamu Ukimura

着任日：平成27年8月1日

5年超ほど府立医大を離れていて、今、愛する母校に戻って思うに、景色も人も時代とともに変わってきたところもありますが、ホームに戻った馴染み深さを切に感じています。

府立医大の泌尿器外科学には、まず、大学附属病院ならではの臨床診療実績と最先端の診断・治療技術の導入があります。今日まで腹腔鏡下手術症例数は千数百例を数え、日本有数の臨床実績を誇っており、スタッフは全て泌尿器科専門医かつ指導医であり、若い世代の志高く、人材と技術に恵まれた環境にあります。

また、府立医大全体の特徴として、長い歴史が培ってきた多くの繋がりが 있습니다。その繋がりは、京都府下のみならず関西圏を越え、国外の関連病院にまで及び、さらに分野を超え、IT技術を持った企業との繋がりは、今日の最先端技術に繋がり、新しいイノベーションの礎となっています。

自分自身、海外での勤務経験を経て、多様な考え方に触れることで、広い視野を持つことの大切さを知りました。教授となつたいま、フロンティアスピリットにあふれたドクターたちと力を合わせて、共に学びあい、明るい未来へ向かって歩めることが楽しみです。



Profile

京都府立医科大学卒、医学博士。米国・MDアンダーソンがんセンターをはじめとした長期の海外経験をj経て、平成27年8月京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器外科学 教授に就任。現在も米国・南カリフォルニア大学がんセンター 臨床教授(非常勤)を兼務。

一言コメント

学生当時は卓球部でした。最近、卓球部出身の教授がちらほらおられます。卓球部がいま、熱いですね。

人には人の良さがある

看護学講座

關戸 啓子

Keiko Sekido

着任日：平成27年10月1日

私の原点は、栄養士になったところから始まっています。そういう面ではこの府立医大の看護学科の学生さんたちのように、はじめから看護学一筋というよりは、少し遠回りをしています。食生活の援助という面で看護にも生かせると考えています。

専門分野は基礎看護学と看護教育学です。これから看護の道へと進んでいく看護学生の看護教育の効果的な方法開発やその評価が主な研究課題です。その中でも学生の多様性を尊重し、そこからそれぞれの良さをいかに引き出していけるか、ということが大切だと感じています。看護は自分の人生や価値観に影響を与えるような、多くの人との出会いがある仕事ですので、自分自身の良さを認めて、人を支えていける、そんな看護師がこの府立医大で育ってほしいと思っています。

府立医大は、附属病院があることで臨床の現場が非常に近くて恵まれた環境であり、学生のうちから既に看護師になりたいという職業意識の高い学生が多いなと感じます。身近に卒業生たちが働いている、キャリアモデルがそこにあることはとても良い刺激になると思います。そんな中で学生を教えることができるのは、幸せですね。



Profile

徳島大学 医学部栄養学科卒後、川崎医療短期大学 第一看護科卒、臨床教育学博士。全国各地の看護教育に携わる中で、神戸大学保健学研究科看護学領域での経験を経て、平成27年10月京都府立医科大学医学部看護学科看護学講座基礎看護学 教授に着任。

一言コメント

坂の多い神戸からやってきたので、京都の町は歩いていて楽しいですね。趣味はこれから見つけていきたいと思っています。



人間万事、塞翁が馬

医療レギュラトリーサイエンス学

中垣 俊郎

Toshiro Nakagaki

着任日：平成28年1月1日

本教室は医薬品などの実用化におけるプロセスの中で、様々な承認や評価における適正な水準を科学的に研究しています。

医薬品という性質上、その承認や評価のプロセスは、より質の高い審査基準や評価手法が求められます。しかしながら、各承認機関の理想とするエビデンスの水準を追い求めたらキリがありません。しかし、その先に治療を待っている患者さんがいる以上、迅速性も求められます。遅くはない。いい加減では絶対いけない。その適正な水準を科学的側面から追求して、科学技術の社会還元によりよい循環をもたらしていくことが、この学問の神髄です。

これまで行政官として、そうした『医薬品の基準』に向き合ってきましたが、学術的な側面を肌で感じたのは、学会でのアカデミックな出会いでした。レギュラトリーサイエンス学の分野は、近年、日本だけではなく欧米にも重要性が認識されてきた新しい研究分野です。単科医科大学という専門性の高さと、地域医療を支えてきた強みを生かして、府立医大だからこそできる、社会還元の取り組みにいかしていければと思います。

こうした研究的な側面に加えて、大学にはもう一つ、教育的な側面があります。私自身、『教員』という職自体が初めてですので、これまでの公官庁での経験が、大学の文化にうまくマッチできることを祈って、来年度からの授業など、新しい経験ができることを楽しみにしています。

Profile

東京大学薬学部卒業。厚生省（現厚生労働省）へ入省後、PMDAやインドネシア大使館などの経験を経て、平成28年1月京都府立医科大学大学院医学研究科医療レギュラトリーサイエンス学 教授に着任。

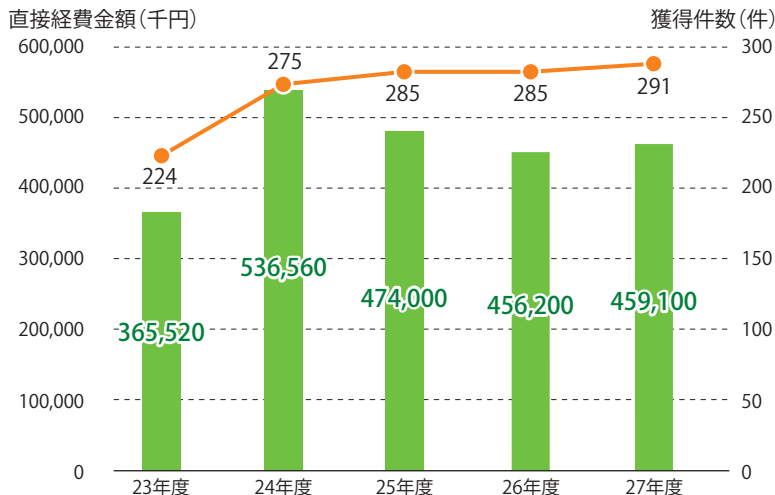
一言コメント

これまで京都には出張で訪れたことはありますが、京都在住は初心者なので、本場の日本文化をじっくり堪能したいですね。

公的研究費獲得状況

■ 文部科学省科学研究費の獲得状況推移(過去5年)

※金額・件数は交付内定時のもの



平成27年度採択 基盤研究A(2件)

小児固形悪性腫瘍の非侵襲的診断と新規治療開発のための

トランスレーショナルリサーチ

細井 創 (小児発達医学 教授)

12,610,000円

がんの「分子標的予防法」のヒト予防介入試験への応用

酒井 敏行 (分子標的癌予防医学 教授)

10,270,000円

■ 平成27年度 その他公的研究費獲得案件一覧(研究費総額1千万円以上)

※平成27年2月時点

① 事業者 ② 事業名 ③ 研究課題名 ④ 研究者 ⑤ 研究費総額

① 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
② 機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト
③ カロテノイド類の生体調節機能に着目した抗メタボ食品提供技術の開発とその効果の実証研究
④ 高木 智久 (消化器内科学 准教授) ⑤ 60,575,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 革新的がん医療実用化研究事業
③ がん化学予防薬の実用化をめざした大規模臨床研究
④ 石川 秀樹 (分子標的癌予防医学 特任教授) ⑤ 89,516,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 革新的がん医療実用化研究事業
③ ノン・ハイスループット小児悪性固形腫瘍の安全性と治療QOLの向上への新たな標準治療法開発のための多施設共同臨床研究
④ 細井 創 (小児発達医学 教授) ⑤ 31,929,500円

① 国立研究開発法人科学技術振興機構
② 再生医療実現拠点ネットワークプログラム 再生医療の実現化ハイウェイ
③ 培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化
④ 木下 茂 (特任講座 感覚器未来医学 教授) ⑤ 56,174,999円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 再生医療実用化研究事業
③ 培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化
④ 木下 茂 (特任講座 感覚器未来医学 教授) ⑤ 81,900,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 臨床研究・治験推進研究事業
③ 難治性角結膜疾患に対する培養自家口腔粘膜上皮シート移植
④ 木下 茂 (特任講座 感覚器未来医学 教授) ⑤ 56,404,400円

① 国立研究開発法人科学技術振興機構
② 戦略的創造研究推進事業(さきがけ)
③ 進化的・構成的アプローチによる哺乳類型大脳皮質層構造の再設計
④ 野村 真 (神経発生生物学 准教授) ⑤ 13,520,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 産学共創基礎基盤研究プログラム
③ 5-アミノレブリン酸(5-ALA)とランタニドナノ粒子(LNP)併用による深部微小癌局在診断技術の構築
④ 大辻 英吾 (消化器外科学 教授) ⑤ 19,019,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 研究成果最速展開支援プログラム(A-STEP)
③ 消化管機能分子と血清タンパク質の系統的解析による抗糖尿病機能性糖鎖の開発
④ 内藤 裕二 (消化器内科学 准教授) ⑤ 11,874,200円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② オーダーメイド医療の実現プログラム
③ 感冒薬による重症薬疹発症に関わる遺伝素因の同定並びに病態の解明
④ 上田 真由美 (特任講座 感覚器未来医学 准教授) ⑤ 47,410,000円

① 国立研究開発法人科学技術振興機構
② 戦略的創造研究推進事業(CREST)
③ エビジェネティクス制御化合物の設計、合成と酵素阻害活性評価
④ 鈴木 孝禎 (医薬品化学 教授) ⑤ 36,452,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 難治性疾患実用化研究事業
③ シャルコー・マリー・トゥース病の診療向上に関するエビデンスを構築する研究
④ 中川 正法 (大学院医学研究科 教授) ⑤ 22,500,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 難治性疾患実用化研究事業
③ Stevens-Johnson症候群慢性期の診断基準・実態調査と治療法の確立
④ 外園 千恵 (視覚機能再生外科 教授) ⑤ 10,000,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 革新的がん医療実用化研究事業
③ がん免疫療法との併用による分子標的薬の治療抵抗性の克服
④ 酒井 敏行 (分子標的癌予防医学 教授) ⑤ 12,350,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(再生医療等の産業化に向けた評価手法等の開発)
③ 均質な培養ヒト角膜内皮細胞による安全な再生医療の確立のための革新的評価法の開発
④ 木下 茂 (特任講座 感覚器未来医学 教授) ⑤ 26,070,000円

① 国立研究開発法人科学技術振興機構
② センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム
③ 真の社会イノベーションを実現する 革新的「健やか力」創造拠点(中核機関:国立大学法人弘前大学)
④ 成木 迅 (精神機能病態学 准教授) ⑤ 20,000,500円

① 厚生労働省
② 厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(精神障害分野))
③ 学際的・国際的アプローチによる自殺総合対策の新たな政策展開に関する研究
④ 本橋 豊 (大学院医学研究科 特任教授) ⑤ 18,200,000円

① 厚生労働省
② 厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業
③ がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究
④ 細川 豊史 (疼痛・緩和医療学 教授) ⑤ 10,990,000円

① 農林水産省
② 平成27年度農山漁村6次産業化対策事業補助金
③ 健康長寿延伸のための食育イニシアチブ協議会
④ 内藤 裕二 (消化器内科学 准教授) ⑤ 65,000,000円

① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
② 立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発
③ 細胞を用いた機能的な立体組織製作技術の研究開発
④ 五條 理志 (寄附講座 人工臓器・心臓移植再生医学 教授) ⑤ 52,815,000円

■ プレスリリースを行った主な論文

9月

Endoscopy誌 掲載

世界初 大腸がんの新治療手法を開発

分子標的癌予防医学 大阪研究室 特任教授 石川 秀樹

これまで家族性大腸腺腫症(FAP)の患者における大腸癌は、大腸全摘術でしか予防ができませんでした。今回、内視鏡的に多数のポリープを取り除くことによる新しい治療手法を開発しました。世界中のFAP患者に本治療手法を提示するため、現在、全国規模の臨床試験を行っており、2020年の最適化・一般化を目指しています。



内視鏡治療前



内視鏡的摘除後

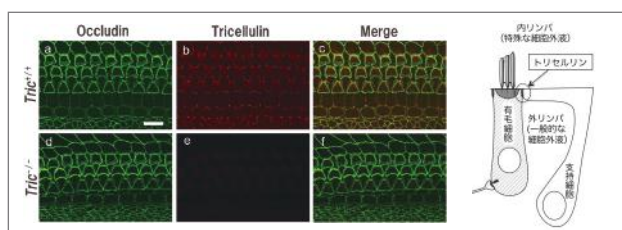
12月

Scientific Reports誌 掲載

先天的な難聴の発症メカニズムを解明

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授 坂口 博史

今回の一部の先天的な遺伝子変異で難聴が発生するメカニズムを解明したことによって、今後、特定の遺伝性難聴患者に対する新たな治療薬の開発などに繋がっていくことが期待されます。



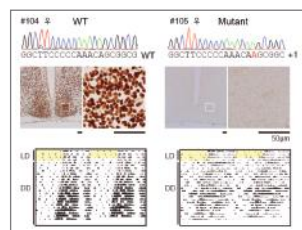
10月

Genes to Cells誌 掲載

Rett症候群患者の睡眠障害の治療法の確立に光

統合生理学 教授 八木田 和弘 講師 土谷 佳樹

Rett症候群患者に対する睡眠障害の治療を考える上で、メラトニン等の概日リズム調節作用を持つ治療薬の効果をメカニズム面から支持する結果となり、今後は、本患者の睡眠障害の治療法の確立に向けた臨床研究へと進むことが期待されます。



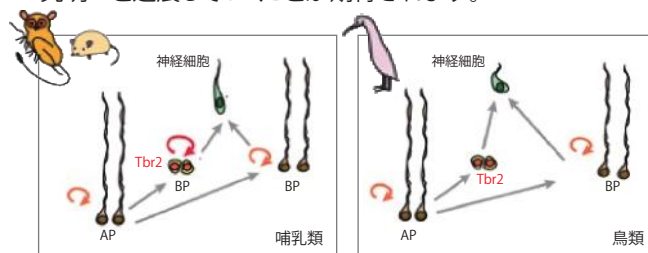
1月

Development誌 掲載

ヒトの『進化の記憶』を鳥の脳から解き明かす

神経発生生物学 准教授 野村 真

電気穿孔法を用いた他の動物の細胞との比較検証により、哺乳類大脳皮質の進化的起源に迫る手がかりとなるもので、今後は小頭症やその他の先天性脳神経疾患などの原因究明へと進展していくことが期待されます。



基底膜側の前駆細胞の増加

基底膜側の前駆細胞の増加

APs: 脳室側の前駆細胞 BP: 基底膜側の前駆細胞

■ 実用化された主な研究

希少難病に対する新医療機器の医師主導治験に成功、薬事承認

本学と株式会社 サンコンタクトレンズは共同研究により、指定難病であるスティーヴンス・ジョンソン症候群等の眼後遺症に対する新医療機器(コンタクトレンズ)を開発し、医師主導治験を経て、平成28年2月15日付で厚生労働省から承認されました。

医師主導の臨床治験は、企業としては採算性の低い、希少疾患等における医療上の必要性の高い医薬品の開発が可能であり、希少難病の患者さんにとっての一筋の希望です。

全国的に医師主導臨床治験から薬事承認まで至るケースがまだまだ少ない中、今回の取り組みは京都の地元企業の協力や京都大学との連携、国からの支援など、様々な関係機関の支援体制によって成し得た結果であり、難病等の臨床研究に携わる医師に広がっていくことが期待されています。

視覚機能再生外科学 教授 外園 千恵



報道発表事項

発表日	項 目 名
5月1日	研究成果の発表 ヒト皮膚細胞から低分子化合物のみで効率よく神経細胞を誘導する方法を発見 細胞再生医学
5月13日	共同研究講座の開設 本学と公益財団法人綾部市医療公社(綾部市立病院)による共同研究講座『リハビリテーション先進医療開発講座』開設 運動器機能再生外科学
7月24日	訓練実施 全国初 遺体に接触する機会のある警察官等対象の検視・検案の業務での感染症予防のための訓練を実施 法医学
8月16日	イベント実施 普段なかなか外出できない入院中のこどもたちに夏の楽しみを届けるため、『送り火こども祭り』を開催 小児医療センター
9月10日	研究成果の発表 世界初 大腸がんの発生リスクを低減させる新手法を開発[詳細:P15] 分子標的癌予防医学
9月18日	イベント実施 京都府公立大学法人連続講座の開催:京都府立医科大学公開講座11/14, 12/20 総務課
10月9日	治療の成功 重症心疾患を持つ生後1か月(体重2,9kg)の乳児の難治性不整脈に対し、頻脈治療に成功した世界最小体重例 経営企画課
10月15日	研究成果の発表 Rett症候群患者の睡眠障害の治療法の確立に光[詳細:P15] 統合生理学
11月14日	イベント実施 市民公開講座『心豊かな超高齢社会を迎えるために』の開催 地域保健医療疫学
11月10日	イベント実施 「府民講演会」の開催 附属図書館
11月18日	施設拡充 北部医療センター産婦人科病棟に陣痛室・分娩室・回復室が一体となった個室、LDRルームが完成 附属北部医療センター
1月4日	研究成果の発表 哺乳類脳と鳥類脳で共通したメカニズムや同様の神経幹細胞が存在することを発見[詳細:P15] 神経発生生物学
1月8日	研究成果の発表 先天性遺伝子変異による難聴の発症メカニズムを解明[詳細:P15] 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
1月23日	参加者募集 近視が気になる小学生の近視進行予防点眼トライアルの参加者募集のための説明会を開催 視覚機能再生外科学
2月3日	共同研究講座の開設 本学と京丹後市(京丹後市立弥栄病院)による共同研究講座『長寿・地域疫学講座』開設並びに弥栄病院分室開所式 附属北部医療センター
2月2日	研究成果の発表 これまで単なる尿の貯留器官として考えられていた膀胱が、睡眠時に尿中水分を吸収していることを明らかにした論文を発表 本学名誉教授
2月16日	研究成果の発表 希少難病に対する新医療機器の医師主導治験に成功、薬事承認[詳細:P15] 視覚機能再生外科学
2月29日	研究成果の発表 胃がん治療の重要な標的分子の遺伝子異常を血液で検出し、胃がんの再発等を低侵襲で診断できる技術を開発 消化器外科学
3月5日	イベント実施 府民公開講座「京都府内の専門医によるがん診療の最前線」の開催 学生課
3月9日	協定締結 本学と京都造形芸術大学の連携に係る包括協定調印式 研究支援課

図書館の取り組み

KPUM図書館サポートプロジェクト

古本募金

役目を終えたあなたの本が、大学に必要な図書に生まれ変わります

読み終えた図書や使わないCD、DVDをプロジェクトにご提供ください。「KPUM図書館サポートプロジェクト」は、いただいた寄付金を学生のための新しい図書の購入や図書館の充実のために活用します。

<http://www.furuhon-bokin.jp/kpu-m/>

古本募金の流れ

1. 本・CD・DVDを寄贈
合計5冊(5点)から送料無料

2. 本の集荷・仕分け・査定
VALUE BOOKS

3. 京都府立医科大学へ
買取金額の寄付



お問い合わせ

附属図書館 TEL. 075-212-5400 (代表) URL. <http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

京都府立医科大学広報誌

News & Views 送付のご案内

京都府立医科大学では、大学の主なできごとや、取組み、研究成果、附属施設の話題を、広報誌「News & Views」で、みなさまにお届けしております。インターネットから大学ホームページでもご覧いただけますが、ご希望の方には郵送にて無料でお送りしております。ぜひ、下記よりお申し込み下さい。

- インターネットでお申し込みの場合：① 下記HPにアクセス ② 必要項目を入力 ③ 完了!

<http://www.kpu-m.ac.jp/cms/form/nv>

- FAXでお申し込みの場合：氏名・住所・連絡先(電話またはEメール)・希望冊数を記入の上、お申し込み下さい。

FAX送信先: 京都府立医科大学 広報センター(事務局: 研究支援課) **075-251-5275**



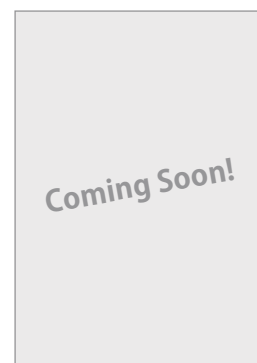
Vol. 1



Vol. 2



Vol. 3



Vol. 4



News & Views

vol.3 Mar, 2016



表紙写真：大学門「白イ門」

歴史を紡ぎ、憩い、安らぎ、慈愛の絆を結ぶ門。

京都府立医科大学の新しい門は、創立140周年を記念して2012年に建築家・京都大学教授高松伸先生によって設計されました。高松先生は人と人をつなぐ絆、縁、そして安らぎを大切に考えられ、明治初期に建設された「白イ門」を現代に蘇らせることで、青蓮院の療病院から続く歴史と慈愛の心を、この門を利用する方々に感じてもらうことを念頭に設計されたそうです。

「病院や大学は、医学を学び、病気の治療をするだけでなく、心と体を癒し、育む場所だと思います」と言う高松伸先生。それを象徴するようにこの門では、日が昇ってからは陽光に輝く清潔感あふれる白が、そして日が暮れてからは夜の闇に浮かび上がるやさしい光が、人々を温かく迎え入れます。

京都府立医科大学

発行日：2016年3月31日 発行：京都府公立大学法人 京都府立医科大学 後援：公益財団法人 京都府医学振興会

〒602-8566 京都府京都市上京区河原町通広小路 上梶井町465番地 URL: <http://www.kpu-m.ac.jp/>

企画・編集：京都府立医科大学広報センター [事務局:研究支援課]